



今回は、先日のおはなし会で読んだ日本の昔話の絵本を紹介します。

『天(てん)のかみさま金(かね)んつなください』(津谷タズ子再話 梶山俊夫絵 福音館書店 2016年刊)です。この絵本は、もともとは1988年に「こどものとも」として発行されたものです。再話された津谷さんは、山形生まれの方ですので、文章も山形弁ぽくなっています。

ある日、かあさんが出かけているあいだ三人で留守番をしていた兄弟のところに、やまんばがやってきます。母さんではないものを家に入れないように頑張る三人ですが、やまんばにだまされて、かあさんと偽ったやまんばを家に入れてしまいます。たろうとじろうは、やまんばと気が付いて、うまく家の外に逃げ出し、木の上に隠れるのですが、それでも見つかってしまいます。そこで、天の神様にお願いすると金(かね)のつなが、天から降りてくるのですが、その音がとても印象的です。

子どもたちが小さいとき、この絵本を読んでいました。とても怖いお話しだったけど、また読んでほしくなると、息子が憶えていました。「じん じゃらんじゃらん じん じゃらんじゃらん」と金(かね)のつながりてくる音が忘れられないと言っていました。

どちらかという長いお話なのですが、やまんばは家の中に入ってくるし、さぶろうはどこかにいってしまうし、木に登って隠れても、やまんばが登ってこようとすると、つなにつかまって逃れると、やまんばもつなにつかまって登ってくるし、怖い場面が長々と続きます。最後は、かあさんも帰ってきて、「めでたしめでたし」なのですが、なにしろ怖い場面が長い!

先日のおはなし会は、たくさんの参加者がいて、年齢も様々で、小学生から2、3歳の子までいました。なので、相方が読み始めるときは、とても心配でした。泣いてしまったり、出ていきたくなる子がいたらどうしよう。ところが、おはなしがはじまると、大きい子たちの目は、真剣そのもの。物語の中に引き込まれているのがわかりました。最後まで、皆聞き入っていました。ちっちゃな子が、お父さんのひざに逃げたのは、しかたがないね。



「天(てん)のかみさま 金(かね)んつなください」
津谷タズ子 再話 梶山俊夫 画
2016年刊 福音館書店

てあそび*やらべうた やってみよう!

『もちっこ やいて』 

お正月といえは おもち! いろいろなあじで たべよう♡

- ① もちっこ やいて
- ② とっくらきやして やいて



りょうこをまえにだし
手のひらを
下にむけて
上下に4回ふる



ひっくりかえし
手のひらを上にし
上下に4回ふる

- ③ しょうゆをつけて たべたら
- ④ うまかるう



かたほうの手を
おさろにして
しょうゆをまぶす
しぐさをする



りょうこで
ほっぱたを
おさえる

もちっこ やいて とっくらきやして やいて しょうゆを つけて たべたら うまかるう

参考・引用文献: 近藤信子・柳生弦一郎『にほんのゆらべうた ①うめとさくら』
④ 楽譜とCD 福音館書店

